

## 令和5年度北九州市学校事故等有識者会議議事録

日 時：令和6年3月14日 10:00～11:00

場 所：小倉北区役所東棟6階 教育委員会会議室

委 員： 中馬 充子、原田 美紀、伊東 夏樹  
(オンライン) 辰見 康剛

事務局：教育次長、学校教育部長、生徒指導課長、学校支援担当課長 ほか

式次第：1 教育次長挨拶

2 議事

議題1 本市における学校事故等への対応について

- (1) 学校事故等防止に関わる通知および学校事故件数の推移
- (2) 市立学校・幼稚園における荒天時の対応
- (3) 学校給食における事故防止

議題2 熱中症対策「北九州市学校における熱中症対策ガイドライン」の改定について

議題3 学校事故事例検討（非公開）

議事録

(座長) 令和5年度有識者会議をはじめ。

議題1「本市における学校事故等への対応」について

(1)「学校事故等防止に関わる通知および学校事故件数の推移」の説明をお願いします。

<事務局> (1)「学校事故等防止に関わる通知および学校事故件数の推移」説明。

【質疑・応答】

(委員) 事故等が発生したときや事故を予防するために学校から専門家へ助言を求めるなど、有識者へアクセスする方法等を周知することも重要と考える。

事故を予防するため、子どもも職員も何に気を付けるべきか知っておくスキルが大事になっていくと考える。

(座長) 学校における事故件数が今年度減少していることは、これまでの取組の成果であり、大変よいことだと考える。

(委員) 資料7ページの内容は、事故が発生したときに学校が迅速に対応するため、学校に対して繰り返し伝えておくことが重要と考える。

(座長) 事務局から学校への通知については、その内容も多岐にわたっており、網羅されていると考える。事務局は必要に応じて学校からの反応を随時受け止めながら、対応にあたってもらいたい。

(座長) 次に、議題1(2)「市立学校・幼稚園における荒天時の対応」について説明をお願いします。

(つづく)

<事務局> (2)「市立学校・幼稚園における荒天時の対応」説明。

【質疑・応答】

(委員) 保護者としては、早め早めの対応が、後の対応を早くとりかかることができる。その意味で、このようにこれまでの反省を踏まえて基準を定め、的確に対応することは良いことだと思う。

(座長) 他にご意見等はないか。

では続いて、議題1(3)「学校給食における事故防止」の説明をお願いする。

<事務局> (3)「学校給食における事故防止」説明。

【質疑・応答】※議題3の中で出た意見

(委員) 事故を防ぐためには、何よりダブルチェックをすることが重要だと思う。ただし、それも毎日続くと、見落としが起こりやすい。そのために、例えば1人は固定で毎日対応して、2人目は日替わりで当番制にするなどの対応が有効だと考える。

(委員) アレルギー対応給食で除去食の申請など、保護者がチェックしているつもりであっても、保護者もさまざまである。保護者に頼らないチェック体制を学校が整えることも重要だと思う。

(委員) アレルギー対応の児童は食器の色を変えるというのはどうか。

<事務局> 対象の児童が周りとは違うことにより、ストレスを感じてしまうこともあるかと考える。

(委員) 事故が起こったときに、どういう原因かを学校に伝えることが重要だと思う。

(委員) 担任、養護教諭がこまめに打ち合わせをすることによって、ヒューマンエラーを防ぐことができると思う。

(座長) 小学校であっても、子ども同士でも共通認識を持たせるべきではないか。他の子に伝えることは個人情報にあたると言われることもあるが、命に関わることなので、個人情報以前の問題だと思う。

(座長) 他にご意見等はないか。

では続いて、議題2「熱中症対策『北九州市学校における熱中症対策ガイドライン』の改定について」の説明をお願いする。

<事務局> 議題2「熱中症対策『北九州市学校における熱中症対策ガイドライン』の改定について」説明。

【質疑・応答】

(座長) 他都市にはない、一斉中止の対応はすごく先進的な取組であると思う。他の委員からもご意見をいただきたい。

(委員) ガイドラインの内容については、必要な内容がしっかり入れられていると思う。

スポーツ科学の視点で言うと、体内の熱は蓄積されるものであり、発症はしなくても熱疲労は体内にたまっている状態である。だから、どこまでの対策をすれば安全とはいえないことは知っておいてもらいたい。

また、熱中症への耐性は個人差がある。体重によっても、体脂肪率によっても、運動の苦手な子かどうかによっても差異がある。学校の先生たちはそのことを認識して、指導に当たってもらいたい。